

第6期第6回 横浜市市民協働推進委員会 会議録	
日 時	令和6年9月13日（金）午後2時00分から午後3時21分まで
開催場所	横浜市庁舎9階 09-N12会議室
出席者	鈴木伸治委員長、大塚朋子委員、菊池賢児委員、後藤智香子委員、齊藤ゆか委員、高橋敬太郎委員、竹原和泉委員、森川正信委員
欠席者	0人
開催形態	一部非公開（傍聴者0人）
議 題	報告事項 ア 「市民活動情報のデジタル化」実証実験について イ よこはま夢ファンド登録団体の決定について ウ 令和5年度横浜市市民協働条例に基づく市民協働の取組状況報告書について 審議事項 ア よこはま夢ファンド登録団体の抹消について イ よこはま夢ファンド登録団体助成金交付審査結果について ウ 市民協働提案事業（行政によるテーマ設定型）の審査について その他
議 事	開会 （鈴木委員長）皆さま、本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。 ただ今より第6期第6回横浜市市民協働推進委員会を開会いたします。 それでは、まず定足数の確認を行いますので、事務局から説明をお願いします。 （事務局）市民協働条例施行規則第8条第2項では、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができないと規定しています。本日、出席8人、欠席0人の委員全員の過半数の出席があり、定足数を満たしております。なお、本日は、市会本会議のため、市民局長の渋谷が欠席とさせていただいておりますのでご了承をお願いいたします。 （鈴木委員長）事務局から説明のとおり、定足数を満たし、委員会が成立していることを確認しました。 それでは、お手元の次第に従いまして議事を進行してまいります。 まず、本日の委員会は、横浜市の保有する情報公開に関する条例第31条の規定に基づき公開としますが、報告事項のウについては、一般公表前で、本日の市会本会議終了後に市会議員に配布される資料であること。また、審議事項アからウにつきましては、委員会において公開で審議をしますと自由な審議の妨げになることから非公開とさせていただこうと思いますが、委員の皆さま、いかがでしょうか。 ありがとうございます。では、ご了承いただきましたので、これらの議題につ

	いては非公開とさせていただきます。 前回議事録の確認 続いて、前回の会議録を確認します。事務局よりお願いします。 （事務局）前回の委員会は6月11日火曜日午後6時から市役所1階スペースABで行わせていただきました。当日は6名のご出席、2名のご欠席の定足でございました。 審議事項としましては、横浜市市民協働推進委員会における部会委員の指名についての1件、報告事項としまして、令和6年度地域支援事業部会の概要について、横浜市市民協働推進センター2024年度事業計画について、令和6年度市民協働提案支援事業についての3件をご報告差し上げております。 会議録の詳細につきましては、事前に委員の皆さまにご確認をいただいておりますので、説明については割愛をさせていただきます。 （鈴木委員長）ありがとうございます。ただ今ご報告いただきました前回の会議録について、何かご意見等ございますでしょうか。よろしいですか。 それでは、こちらでよろしければ前回の会議録についてはご確認いただいたということにさせていただきます。 議 題 （1）報告事項 ア 「市民活動情報のデジタル化」実証実験について （鈴木委員長）それでは、報告事項から始めたいと思いますが、まず最初は、報告事項が、「市民活動情報のデジタル化」実証実験について、事務局よりご説明をお願いします。 （事務局）お手元にごございます資料1をご覧ください。記者発表という形で発表させていただいたものになります。内容といたしましては、デジタルによる創発・共創のマッチングプラットフォーム「YOKOHAMA Hack!」の取り組みとして、横浜市民活動情報のデジタル化に向けた実証実験を完了しましたということをご報告をさせていただきます。 こちら実証実験について、目的のところに記載させていただいておりますが、市民活動情報については各団体が各々やられて各々で発信されているというところですが、中高大生や現役世代など新たな担い手となる世代に十分届いておらず、またそのターゲット層への情報発信方法を知らない自分たちの団体の情報が、届いているかどうか把握できないという団体もあるということの課題感がありました。 それに対するものとして、このような掲示板のようなサイトをつくってみて、その取り組みが有効であるかどうかを検証したものでございます。その検証方法
--	---

	につきましては、市民活動情報を「発信する」「届ける」「反響を見える化する」という3点について評価を行っております。これらについて「スキマボランティア」をはじめとするボランティア活動を通じて、市民活動情報が皆さまのお手元に届けるための仕組みを検証したものでございます。 この検証に当たりましては、その下の実施概要のところにも書いてございますが、キヤノンマーケティングジャパンと連携してサイトを立ち上げて運用を行いました。 1枚めくっていただいて2枚目をご覧ください。実験結果でございます。検証方法につきましては、市民活動情報を「発信する」「届ける」「反響を見える化する」の3つの視点について以下の方法により今回の仕組みの評価を行いました。 1つ目がウェブサイトのアクセス解析による分析。2つ目が利用者のアンケート、こちらはサイトを訪れた方のアンケートでございます。3番目が登録団体向けアンケート、こちらは情報を発信しようとする団体のアンケートになります。この1、2、3については定量的なデータでございまして、何が何件あった、どれがどういうパーセントだったとかというところを調べるものでございますが、4番目として学生ワーキング、こちら学生に集まっていただいて、このサイトを見てどう思うかということをして定性的なデータとして取ったものでございます。これらの活動を通じて全体的に2のところですが、登録・投稿状況、2区で試験実証を行いまして、令和6年2月1日～5月31日まで4カ月間このサイトを運用した結果、登録団体数は64団体でございました。青葉区が24団体、都筑区が40団体。それに対して投稿数は66件、青葉区が19件の都筑区は47件という結果でございました。 それから下、3番目の実験結果でございますが、これらのウェブサイトの運用した結果、どうであったのかというところの評価でございます。まず市民活動情報を発信するという点に関しては、今回構築したコミュニティサイトは、市民活動団体が情報を発信するに当たり使いやすいツールとなっていること。また、新しく活動に参加する市民を増やすツールとなり得ることが分かりましたという結論を付けております。 こちらはこういうウェブサイトがあることによって、プラスの効果があるということで、登録団体向けアンケートでは、このようなウェブサイトに投稿するのは「簡単だった」「どちらかというと簡単だった」とした団体は73%でございました。 このウエル・タウンというのはこのサイトの名前ですが、このウエル・タウンが効果的であったかというアンケートを取ったところ「入力フォームにより簡単に作成できた」と回答した団体が19団体中7団体、「これまで発信できなかった層への発信ができた」と回答した団体が6団体ということで、このサイト経由で実際に問い合わせや参加につながったケースもございました。
--	---

また、一番下の重要なところかと思いますが、このようなウェブサイトがあった場合、「今後も利用したい」と回答した団体は19団体中13団体、68%と7割近い団体が、もしこういうサイトがあったら使いたいという結果を頂きましたので、このようなサイトがあることについては肯定的な評価だったのかなと思っております。

もう1枚おめくりいただきまして②番のところ、市民活動情報を届けるというところですけども、これはご覧になる方、このサイトを訪れた方に対してどうだったかというところにもなるのですが、検索機能や掲載情報数を増やすことにより、さらに使いやすいサイトとなる余地が分かりました。また、より多くの人に情報を届けるためには、サイトへの流入を増やすために、広報による周知、幅広い世代を対象とする情報の掲載にも力を入れていく必要があると考えられますという結論を付けさせていただいております。

その理由としてはその下のところにございますけれども、サイトへの流入元というデータを取らせていただきました。こちらはどういうところからこのサイトに来たのかという、どこから来てどこからここへ来たのかというデータですが、ダイレクトというお気に入りとか二次元コード、またはブックマーク、URL等の流入が合計3,070件で全体の81.6%を占めています。これは何を意味するかというと、このURLを知っている人しかここに来ていないということを意味しております。まずはこういう広がりや、例えば検索サイトみたいなところで検索してここにたどり着くとか、そういう仕組みがないといつまでたってもこのサイトを知っている人しか来ないという状況になってしまうということが、この実証実験で見えてきたところでございます。

また、利用者アンケートの結果に、今回、検索機能も付けておりましたが、「求める情報を見つけられた」利用者は53%、検索機能にも今回のサイトの検索機能についてはちょっと問題があったのかなと思っております。

その下になりますが、このサイトを友人・知人に勧めたいですかというアンケートも取りましたところ「勧めたい」と答えた利用者は38%、「勧めたくない」と答えた人は9%、「どちらともいえない」が53%で非常に多くて、こちらもそれほど勧めたいとは思っていただけなかったという結果になったのかなと評価をしております。

その下のところが、どんなサイトになっていれば、勧めたいと思いますかということで、前の質問で「勧めたくない」「どちらともいえない」と答えた33名の方に追加で質問しております。その結果、「募集情報がもっと多いとよい」という意見が16件で全体の48%ということになりました。今回、実証実験が4カ月という短い期間だったことと、参加団体数が比較的64件と少なかったこと、投稿数もちょうと少なめだったことがこのような結果につながったのかなという評価をしております。

	ですので、これらを改善することによって、まだ、これらのサイトとしては伸びる余地があるのかなというところの評価でございます。 その下は囲みのところでございますが、学生ワーキングでの意見、これ定性的な意見として数は特に取っておりませんけれども、こういう意見がありましたというご紹介ですが、「中・高・大生向けの募集が見つからない」という声であるとか、「対象年齢が高いと感じる」など意見があったほか、検索方法がちょっと分かりにくい点とか、字が小さいという意見などもございまして、その辺のユーザーインターフェース、UIに関するご意見も頂きましたので、これを次につなげる時にはその辺りを改善していきたいと考えております。 もう1枚おめくりいただきまして、最後の反響の見える化、③番のところでございます。情報を発信する市民活動団体にとって、反響が見えるということについては、肯定的であることが分かりましたという結論を付けさせていただいております。今回のサイトでは、団体のページとイベントのページがございました。その中に「応援する」というボタンを設けて、「いいね」みたいな形で押せるようにしたところ、団体のほうで、うちのイベント何件付いたというような形が見えるようになったということに関して、各団体にアンケートを取ったところ、登録団体の90%が「良い」とか「どちらかというが良い」という回答でしたので、このような反響が見えることについては団体のモチベーションにつながると思いますので、この機能は必要なのかなという認識をしております。 これら3点の評価項目がありまして、良かったところ、悪かったところ、いろいろございますけれども、総合的にはこのようなウェブサイトがあって良かったという意見がございましたので、頂いた意見を参考にしながら引き続き、改善を施した上で次につなげていきたいと考えております。 ご報告としては以上でございます。 (鈴木委員長) ただ今、事務局から説明がありましたが、皆さまからご質問、ご意見等あれば頂きたいと思います。 竹原委員、いかがですか。 (竹原委員) 参考に、今日お配りした資料「青葉区青少年の地域活動拠点あおばコミュニティ・テラス事業報告書2023」の付箋がある19ページを開けてください。実証実験のまずキックオフに中・高校生・大学生が最初にワークショップを行い関わらせていただいて、それから数カ月後にもう一度学生ワーキングを行ったことをお知らせしたいと思います。 今回は、市民活動センターを中心に情報を加え、もう少し広くいろいろな情報を入れることによって現役世代や学生のニーズに応えられるのではないかなと思っております。 (鈴木委員長) ありがとうございます。ご協力、どうもありがとうございます。その他いかがでしょうか。
--	--

	齊藤委員、お願いします。 (齊藤委員) 結果の報告ありがとうございました。2つの段階があると思いますが、まずは各区でのボランティア情報を出したいという市民団体をどうやって総括していくかっていうことがあろうかと思います。ちょっとこの募集の仕方については分からないところもありましたけれども、今後これを本格的にやっていく時に、やはり今ちょっと大学でも問題になっているのが結構宗教団体が多くて、その勧誘が結構激しいとか、こういうやみくもにアクセスしてくるところが危険を伴う団体ももちろんあるわけなので、そういうことが1回でもあると、やっぱりそこに信用がなくなってしまうという課題もどうしても生じてしまうということがありますので、もし、やるとしたら区の中での組織的な総括というか、した中でのこのシェアをしてそこを掲載していくっていうか、そういうことが、まず、第一段階として必要かなっていうことがまずあります。 2つ目のところですが、やはりどのボランティア情報もそうですが、この団体がありますよという事実は分かるのですが、では、いつ、どこで、何時に行けばいいのという、そういうところの要は情報が欲しいわけですけども、なかなかそこまで、ただ団体を羅列しているだけで電話番号が載っているだけで、そこに、いつ、どこで、何時に行けば活動ができるかとか、どういうふうに持ち込めばいいかっていうところがないと一歩進めないっていうことがあります。 なぜかという、例えば、私、前も申し上げましたけれども、授業でボランティアの授業を担当しておりまして、200人中約9割がボランティアやりたいっていうので、200人の教養科目の授業があるんですけど2回ボランティアやってきなさいっていう、ちょっと横暴なことをやっていて、そうした時にやっぱり案内をする、申し込みにもものすごくハードルが高いわけなのですね。だからそのところをどういうふうにやって、ちゃんと分かりやすくアクセスできるような日時や場所など、まず、最初のステップは体験的なものだと思うと、やっぱりイベント的、体験的っていうふうにならざるを得ないと思うのですが、それでもいいのでやってくれるようなものが必要だということと、次の段階はやはり質の問題が出てくるかなと思います。やった時にそこに誰がボランティアとして受け入れてくれるかとか、フォローしてくれるかとか、結局来ても、ただ立ち尽くしているだけで、結局初めてやる人は組織の中にはなかなかなじめないという状況もあろうかと思いますので、そういったとこにつなげてっていうところの存在などがあるところになるかどうかっていう、ちょっと段階的ではありますけれども、そういったことが必要なのかな、というふうに思いました。 以上になります。 (鈴木委員長) ありがとうございます。いかがですか。 (事務局) ありがとうございます。 1点目の登録団体のほうですが、今回の試行には2つの区の区民活動支援セン
--	---

	ターに登録していただいている活動団体、または自治会、町内会といったところで、地域振興課のほうにご登録いただいているような地域の自治会というようなところでやらせていただきました。登録の説明会というものをさせていただいた後に、申請をいただくというようなことでやらせていただきましたけれども、やはり今後の本格実施の時にはご指摘の部分は、配慮していきたいと考えております。 2点目のやはり具体的に、いつ、どこで、どんなことがといったような情報のところにつきましては、今回の実証実験では、団体のほうから掲載情報を載せていただく時に均一のフォーマットを設けまして、日時だとか場所など必須の項目を設けて情報掲載をいたしましたので、そういったところで具体的に情報を届けるといったところも本格の実施の時には配慮してまいりたいというふうに考えております。 また、踏み出した後の活動の一番最初のところのなじみやすさといったところにつきましては、区のほうの区民活動支援センターなどに少し相談をしながら、少しやりながらというところが出てきてしまうかもしれませんが、情報だけではなくてきちんと活動に結び付ける。またはそれが継続に結び付くというようなところを考えながらやっていきたいと思います。ありがとうございます。 （鈴木委員長）その他いかがでしょうか。 （菊池委員）ご説明ありがとうございます。最終的なこの実験の話ではなくてイメージですが、地域にとって住民の情報源っていうのは区活センターよりも地域ケアプラザです。区に1個しかないでしょ。地域ケアプラザは中学校圏域に1個ですけど戸塚なんか11個あります。そのコーディネートする人がいます。その登録っていうやつが結構重要で、これなぜこの話をしているかっていうと、われわれのほうで「ちょこっとボランティア」といった団体があるのですが、高齢者の方たちの生活をお助けするっていうことで、15分100円だったかな、結構お安いのですけどね。それでお年寄りが呼んでくれるのですけど、ほんとにその人がそういう対象なのかっていうのを知るために実は面談をやっています。そうしないと自分の話を聞いてほしいだけのお年寄りがたくさんいるからです。ボランティアなので行動しなきゃいけないので、それも高齢化していくことの問題です。そこに若い人が欲しいってとてもあることなのですよ。だから単純にこのネットだけではできないというのが実態だと僕は思います。 その辺のところを信用性、それともうネットでの詐欺っていうのがもう分かっていますから、これが来るっていうのはみんなもうドキドキしているわけですよ。それで高齢の圧倒的に女性が多いのですが、（詐欺に）かかるのです。この人はいい人だから信じたっていうのが圧倒的に多いです。やはり問題になって困るので、すぐ警察に電話すればいいのですけどなかなか警察に電話しないのですよね。隣の人がたまたまこれはっていうことがあれば防ぐのですけども、そうい
--	---

	うとこの安心感がないと、ただでさえもスマホでもPCでもすごいですよね、詐欺がですよね。だからそれと混同しないような仕掛けをどういうふうにしていくかっていうことがないと安心できないかなと思うのでね。 それともう一つ、これ区単位ですよね。今後は違うのですか。 (事務局) 基本的にはそう(区単位)です。 (菊池委員) その区の中だけやりますよね。 (事務局) 基本的にはその方向で考えている。マップなども載せるつもりですけど、基本的には区単位で考えております。 (菊池委員) それでいいのですが、それに批判しようと思っていたのですが、老人クラブがどんどんなくなっていくでしょ。今スマホなどで検索すると、横浜駅の西口でこんなイベントやっている、みんなそっち行くのですね。いつも話す人と終わってから酒飲むっていうのは飽きてきているから、子ども会も同じですけども、とにかく老人クラブがどんどん人が減っているのですね。そういった時に、これ若者中心って書いてありますが、実は、今、昼間のコミュニティーっていうのは若者でできてないのですよね。なおかつ定年が、日本もそのうちなくなると思いますけれども、高齢者も仕事して、お母さん方も今とうとう70から75%ぐらい共働きになりましたよね。昼間いないのですよね。大学生学校行っているのですよね。そこでどうやってマッチングするのかうまく仕掛けをしないと、とてもいいことでやってほしいのですが、ちょっと疑問が残るなという感じがするのですね。そこをどう充実させるかっていうのをぜひ検討させていただきたいなと思います。 以上でございます。 (事務局) ありがとうございます。 (鈴木委員長) いかがでしょうか。今すぐく菊池委員から地域ケアプラザなども情報の拠点になっているというお話ありました。今回は地域ケアプラザとかは入ってない。 (事務局) 今回は各区の区民活動センターと公園愛好会と自治会、町内会ということで、実証実験に4カ月ということもございましたのでその3団体に絞らせていただいております。 その団体の活用についてはわれわれも有効なところを探りながら広げていきたいと思いますので、情報の正確性とちょっとバランスはあるかと思いますが、そこを見ながら進めていきたいと思います。ありがとうございます。 (鈴木委員長) 以前この会議の中でも、例えば、地区センターとかコミュニティハウスとか、いろんなところでかなりいろんな多様な催しが行われているけれども、そういったものがなかなか共有されないっていうような指摘もあったので、今回はどちらかというとボランティアなどの募集に焦点を当てたのかもしれないですけども、これからもう少し本格的にやるに当たっては、ちょっと枠組みを考
--	--

	えていく必要があるのかなというふうに思います。それは特にダイレクトのアクセスがほとんどっていうことは、それを実際にこういうことをやっているっていうのを知っている人しかアクセスしてないっていうことですよね。一般への訴求が全くなかったっていうことはちょっと真剣に考えるべきかな、というふうに思うのです。 元々この会社が作ったシステムというのは、四国の非常に人口少ない町でやっていたシステムをこちら側に持ってきているというふうに思うのですね。かなり既存のコミュニティーが、顔の見えるコミュニティーが形成されているところで情報を共有するのと、なかなかそういう規模も大きくて青葉、都筑というところと人口数も多いですし、かなり多様な人がいて、お互いになかなか知り合わない。特に学生は地域と縁がない、そういう状況でやるサイトのつくりとやっぱりそこにミスマッチがあったのではないかな、というような気もちょうとしているのですけども、その辺りの認識はいかがですか。 （事務局）今ご指摘がありましたとおりキヤノンマーケティングジャパンは、四国の徳島県の神山町というところで実績がある企業でございまして、そこをこちらに持ってくるに当たっては若干アレンジを加えてはございました。ただ、おっしゃるとおり、その辺りのちょっとミスマッチみたいなところはあったのかなというところをわれわれの反省として、次に構築する際にはその辺を踏まえた上で経験のあるところとかそういった知見を入れながら構築をしていきたいと思えます。ありがとうございます。 （鈴木委員長）多分、サイトをつくるだけではなくてどうやって声をかけるかとか、そういうマネジメントそのものがやっぱり一番大事なことではないかという気がしますので、ぜひ本格運用に向けて少し振り返りをしっかりしていただければなというふうに思います。 ほかよろしいでしょうか。 （１）報告事項 イ よこはま夢ファンド登録団体の決定について （鈴木委員長）それでは、報告事項イに移りたいと思います。報告事項のイ、よこはま夢ファンド登録団体の決定について、事務局のほうから説明をお願いします。 （事務局）お手元に資料２をご用意ください。 よこはま夢ファンド登録団体の決定についてになります。よこはま夢ファンド団体登録要項の申請要件に照らし審査を行い、団体の登録を決定しましたので、今回はご報告をさせていただきます。 申請のありました団体数は５団体、決定された団体数も同じく５団体となります。
--	---

	登録団体の詳細につきましては資料2の2に書かせていただいております。団体のお名前が、NPO法人Sharing Caring Culture、NPO法人霧が丘ぷらっとほーむ、NPO法人神奈川区多文化共生の会、特定非営利活動法人ハートフル・ポート、特定非営利活動法人にゃぶ・猫を保護する人を増やす会のこちらの5団体となります。どちらの団体におかれましても、要件に照らし合わせまして内容を満たしているため登録団体として決定をさせていただきました。 各団体の概要につきましては、資料に詳細を記させていただきます。なお、こちらの件につきましては、令和6年8月29日に開会いたしました横浜市民協働推進委員会市民活動運営支部事業部会におきましてもご報告をさせていただきます。 事務局からの説明は以上となります。 (鈴木委員長) ありがとうございます。こちらについてご質問、ご意見等あればお願いします。よろしいでしょうか。ありがとうございます。 (1) 報告事項 ウ 令和5年横浜市民協働条例に基づく市民協働の取組状況報告書について 《これより非公開議題のため会議録の公開はありません》 (3) その他 (鈴木委員長) それでは、議事は以上となりますので、その他につきましては、事務局のほうから説明をお願いします。 (事務局) それでは、事務局より次回の日程についてご説明をさせていただきます。次回の委員会は、12月17日火曜日18時からを予定しております。開催場所は、市庁舎1階スペースABにて行います。 また、第8回委員会につきましては、年度末の3月21日金曜日10時からを予定しております。開催場所は、市庁舎18階会議室にて行います。詳細は開催が近づきましたら別途開催通知にて併せてお知らせさせていただきます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。 (鈴木委員長) ありがとうございました。 閉会 (鈴木委員長) それでは、本日の市民協働推進委員会については以上とさせていただきます。どうもご出席の皆さまありがとうございました。 (全員) ありがとうございました。
--	--

資 料	・資料１： 記者発表資料「市民活動情報のデジタル化」に向けた実証実験を完了しました。 ・資料２： よこはま夢ファンド登録団体の決定について ・資料３： 令和５年度横浜市市民協働条例に基づく市民協働の取組状況報告書 ・資料４： よこはま夢ファンド登録団体の抹消について ・資料５： よこはま夢ファンド登録団体助成金交付審査結果について ・資料６－１： 市民協働提案事業（行政によるテーマ設定型）の審査について ・資料６－２： 市民協働事業審査結果通知書案